

十年後の私、そして岩手の姿

菅川 悠介

現在の世界情勢は、大変な不景気であり、歴史に残るような事態とも言われている。物価高騰で家計が苦しい中、失業者も増加の一途をたどり更に打撃を与えている状況だ。これは、いくら東北の「田舎」と呼ばれる地域であろうが同じである。だから、私は今住んでいる「岩手県」を日本、または世界の一部として考えていきたい。

この「岩手県」は、盛岡市を中心とした本州最大の県である。また、自然が多く残っており、夏は海水浴、冬はスキーといったように四季を満喫するには十分な環境の中、歴史的建造物や行事も数多く存在する。代表的なのは、ギネスブックにも認定されている「盛岡さんさ踊り」や、今世界遺産登録を目指している平泉の「中尊寺・金色堂」などが有名である。このような、自然や文化はずっとずっと残していきたいと強く願う。地元の県民のためにはもちろんのこと、就職先が無い現状等で、県外へ出た人々のためにもふるさと岩手の数々の財産は保護していくべきだ。保護し、活動を続ける事で、地元を愛せ、県内で住み続けたいと思う人も増えると思う。

私は、将来の夢を薬剤師とし、四月からは県内の大学で夢に向かい頑張ろうと思っている。具体的には、地元の調剤薬局で働き、患者との会話を大切にしながら、仕事をしたい。一人の医療人として命に関わる重要な仕事ではあるが、その大きさの分だけ社会に貢献できると思う。現在の岩手県では、六十歳前後の人口が多い。十年後、七十代へと変化する頃、丁度私は仕事にも慣れ始めている時期だろう。比較的高齢者の多い岩手での医療施設や医師不足問題、介護問題、交通事故などが今後の課題となってくる。「老後は岩手で住みたい」と他県からの移住者も多い事もあり、最も重要な課題だ。

また、高齢者問題の他には、職業問題が大きいと考える。若者は都会へと足を伸ばすしかない現状だ。そのために、ただでさえ少子化の中で、過疎化に拍車を掛けてしまいかねない。十年後、二十年後と長く先を見て、早期からこの二つの問題を中心に解決策を考え実行していければと思う。

これまで、岩手の素晴らしい財産と、大きく分けた二つの問題について取り上げた。良い所は残し、さらには飛躍させ、課題とされる所は長い目で一つ一つ対処していかなければならない。

職業問題については、岩手は解決できると思う。食品偽造など、食の安全に敏感になっている世の中に対し、地産地消を進めている岩手は一番大切な事を知っている。第一次産業がさかんな岩手で、安全さをアピールし、全国へ提供すると共に、地産地消をもっと広められれば良いサイクルが産まれると考えるからだ。日本全体を見ても、輸入に頼り過ぎている点もあり、今後は第一次産業が大切になる。冒頭でもあるように、世界や日本の一部として先駆けて取り組み、十年後少しでも成果を出せば、時代の先端を岩手から伝えられるはずだ。

それともう一つ、岩手だからしなければならない事がある。それは、環境問題に対して率先して協力するという事だ。県民の心優しい性格を活かして、私達のふるさとの自然を守る事が、地球全体の環境問題対策へと繋がるからだ。多くの自然が残る早い段階から大きく取り上げて欲しい一つだ。平泉の世界遺産登録へ向けての活動も、「登録をして町おこしのために」でなく、「平泉を末永く残していこう」と宣伝し続ければ、国内の世界遺産の一つとして、県民だけでなく、全国からもより注目されるのではないだろうか。

今回、こうして住んでいる地域の未来を考えてみて、岩手を担うのは私達若者なんだと考えさせられた。増加する高齢者のためにできる事を見付けたり、自然や文化を後世へ残したりと、使命をたくされている気持ちになった。十年後には、医療系の仕事を通して地域住民とコミュ

ニケーションを図りながら岩手に貢献していきたいと思う。しかし、十年後と言っても、単なる通過点に過ぎない。

だから、五十年後先まで見据え、今からできるリサイクル活動や、祭りを通して文化を継いでいくなど始めていきたい。十年後も変わらぬ自然、文化を保ち、高齢者から子供までが、より住みやすい岩手になって欲しいし、全国の方々がもっともっと岩手について知ってくれていたら、とても嬉しく思う。

私はもうすぐ選挙に参加できるようになる。だから、未来を考え積極的に参加しようとしている。現知事は若い方なので、日本のような短期間で首相が変わり、政策が思うように行われない事や、結果が見え始めた頃に辞任とならぬよう、長い間、時間をかけて一つ一つ住みよい岩手作りをリードして行って欲しいと思う。